



平成27年2月3日
国土交通省中部地方整備局
港湾物流企画室

～日本経済を支える港湾物流の現場を体感～

名城大学経済学部の学生が名古屋港を見学しました

■概要

平成27年1月30日(金)名城大学経済学部で交通論・物流論を学ぶ学生(24名)が、日常生活ではあまり接点のない海上輸送・港湾荷役についての現場見学を行いました。

本見学は、座学だけでは十分理解できない実際の物流現場の状況を見学することで、わが国にとって必要不可欠な国際物流について理解を深めることを目的に行われました。

■研修の様子

はじめに、中部地方整備局名古屋港湾事務所で名古屋港の概要や行程についての説明を受け、港湾業務艇「翔龍」及び「明竜」に乗船し、新宝・東海元浜・北浜・飛島・金城・弥富・鍋田などのふ頭を見学しました。船内では、自動車輸出基地・臨海工業地帯、バルク貨物やコンテナ基地・航空宇宙産業やシーアンドエアなどについて説明があり、名古屋港の取扱貨物や港湾施設についての質疑が行われました。

その後、飛島ふ頭に移動し、飛島ふ頭南側コンテナターミナルの見学を行いました。飛島ふ頭南側コンテナターミナルは世界で初めてラバータイヤ式ガントリークレーンの遠隔自動化を実現し、日本で初めて自動制御による無人のコンテナ輸送用台車を導入しています。学生は、施設の概要説明を受けた後、管理棟屋上からコンテナ荷役状況の見学及び遠隔操作室の見学を行いました。概要説明では荷役機械の無人化等に興味を示しメリットやデメリット等について活発な質問をしていました。

学生は、日ごろあまり接点のない港湾の機能や活動について目の当たりにし、認識を新たにしたいとの感想を頂きました。

■参加者と行程(概略)

(1)所属 :名城大学経済学部 山本ゼミ 学生24名 教員1名

(2)行程(概略) : 名古屋港内(船上見学)、飛島ふ頭南側コンテナターミナル 他

■配布先 中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、港湾新聞、港湾空港タイムズ、日本海事新聞、海事プレス

■問合せ先

国土交通省 中部地方整備局

港湾物流企画室 和田(わだ) TEL 052-209-6330 FAX 052-203-9739



(別紙)



名古屋港の概要や行程についての説明



名古屋港について質問する学生



港内見学 (港湾業務艇「明竜」)



飛島埠頭南側コンテナターミナル
概要説明後に質問をする学生



飛島埠頭南側コンテナターミナル
管理棟屋上から見学①



飛島埠頭南側コンテナターミナル
管理棟屋上から見学②

※研修の状況写真がご希望の方は対応いたしますので、お問い合わせください。